

2019 年 2 月

青 山 学 院 大 学
地球社会共生学部長 平澤 典男

地球社会共生学部 合格者の皆様へ

この度は、青山学院大学地球社会共生学部に合格され、誠におめでとうございます。

ご入学に先立ちまして、下記の書類及びご案内をよくお読みになった上で、新しい大学生活の始まりに備えてください。

大学入学までの期間が有意義なものとなるよう過ごしていただき、元気に入学され、お会いできることを楽しみにしています。

記

1. 青山学院大学地球社会共生学部 2019 年度推薦図書一覧
2. 地球社会共生学部・英語事前学習についてのご案内

以上

【本件に関する問合せ先】

〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1

青山学院大学 相模原事務部学務課
地球社会共生学部担当

TEL:042-759-6050

青山学院大学地球社会共生学部 2019 年度推薦図書一覧

地球社会共生学部の教員が新入生の皆さんにお勧めする図書です。入学するまでに、ぜひ一冊でも多く読んでみてください。

- 『The Conquest of Happiness』

Bertrand Russell 著、Routledge

大学に入学したばかりの頃、なぜかいつも「幸せ」について考えていて、ふらっと立ち寄った本屋さんで見つけました。難しい単語はありませんが、考えられる内容ばかりで、先を読むのを惜しみながらページをめくった覚えがあります。技術が進歩し世の中が便利になっても、人が心に抱く「幸せ」という根本的な理由は変わりません。今でも時々読み返して、気づかされることがある価値ある一冊です。ぜひ英語でラッセルの世界を味わってほしいと思います。

—菊池尚代（メディアクラスター）

- 『Holes』

Louis Sachar 著、Yearling

絶対に英語で読んでください！英語が苦手な人でも大変読みやすく、物語に入り込んでしまい寝不足になってしまうほど面白いです。しかも、内容が深く考えられます。日本語の翻訳本も出ていますが、日本語で読むと英語で読んだ時ほど胸は弾まないように思います。途中で「あれっ？」と思っても、ぜひ最後まで英語で読み切ってください。読み終わった後に、英語が好きになって自然と英語力も身につけているはずですよ。

—菊池尚代（メディアクラスター）

- 『移民の経済学』

ベンジャミン・パウエル著（藪下史郎監訳）、東洋経済新報

現在、日本は少子高齢化時代にあるが、労働力の不足は深刻な社会問題になっている。短期的には、オリンピック開催に向けたインフラ整備に関わる人手不足があるが、長期的には恒常的な人口減少の中で絶対的な人手不足を如何にして解決するかという問題がある。識者の中には、日本国民の人口が減少して経済規模が縮小するので、敢えて近隣の国々から労働者を受け入れる必要はないのではないとする意見や、全体の人口は縮小しても高齢者人口の絶対的な増大に対して介護者を増やさねばならない、などの様々な意見が

ある。本著は、それらを世界的な過去の事例やモデルを紹介しつつ体系的に整理されている。日本の少子高齢化時代の問題を考える上で、本書は必読に値する。

—岩田伸人（ビジネスクラスター）

- 『革命家、チャンドラー・ボース』

稲垣武著、光人社 NF 文庫

本著は、第二次世界大戦においてインドの革命家チャンドラー・ボースが、日本の支援の下で祖国インドの独立に賭けた執念と生き様を、リアルに描いた良書である。当時もインドは英国の直轄植民地であったが、ボースはインドの独立には、ガンジーのようなやり方ではなく、時には武力を持って英国軍と戦わねばならないとして、インド独立のために日本の支援が必要であると強く訴え、日本も様々な思惑のありながら結果的に、ボースを最後まで支援し、その遺骨は今も日本(東京、杉並区)にある。ボースの生まれ故郷であるバングラデシュの国民は、今なお、ボースを英雄として尊敬し続けており、遺骨が安置されている日本のお寺には、常にバングラデシュの人々が訪れるいわば聖地となっている。日本は、過去のある時期にボースという革命家の志に感銘を受けて共にインド独立のために戦ったことは事実であり、バングラデシュとインドの人々が今でも「日本」という国へ何らかの信頼と期待を心底に抱いているのではないかと考えさせられる良書である。

—岩田伸人（ビジネスクラスター）

- 『学問の春』

山口昌男著、平凡社新書

文化とは何かを考えることは、見えるもの、見えないもののすべてを含めて人間の営み全体を視野に入れながら、人がこの世界において存在することや生きるとはどういうことかを考えることである。本書は文化人類学者の山口昌男が、ホイジンガの『ホモ・ルーデンス』を読みときながら北大の新入生向けに行った文化人類学の入門講義を本にしたもの。徹底したフィールドワーカーであり博覧強記だった著者がテキストをあたかもフィールドワークするかのように読み進めながら、社会構造、贈与や交換、神話的世界などについて海外や日本の事例を縦横無尽に語っている。やさしい語り口だけれどもその内容は深く豊かで、「わからない」ことを楽しむことを含めて、文化の学びへの心躍る誘いとなっている。

—岡本真佐子（ソシオロジークラスター）

- 『学校って何だろう ―教育の社会学入門―』

荻谷剛彦著、ちくま文庫

「どうして勉強しなければいけないの?」「なぜ毎日学校へ通わなければいけないの?」

「校則はなぜあるの?」「教科書ってほんとに必要なの?」皆さんは、このような疑問を感じたことがありますか。また、こうした疑問について、立ち止まってじっくりと考えたことはありますか。

本書は、「毎日中学生新聞」に1997年から98年にかけて連載された荻谷氏の文章をまとめたものです。章題には、皆さんが一度は抱いたことがあるであろう、冒頭に挙げたような学校や勉強についての疑問が並んでいます。この一冊を手がかりに、ぜひそれらの「常識」を問い直してみてください。当たり前のことを、一度足を止めてなぜだろうと考えることは、「学ぶことの意味」をふたたび掴みとる助けとなるはずです。

—橋本彩花（ソシオロジークラスター）

- 『グローバリゼーションとは何か』

伊豫谷登士翁著、平凡社新書

グローバリゼーションという言葉が使用されるようになってから、長い年月が経過しました。現代社会ではごく当たり前の状況ともなり、様々な事柄がこのグローバリゼーション状況を前提としています。本書は、現代社会を理解するために必要なこの「グローバリゼーション」という現象を、政治経済分野を中心として、多角的に読み解いています。特に、グローバリゼーションには、差異化と統合という両面性があり、グローバルとナショナルは補完的であるという指摘は非常に重要です。

—齋藤大輔（ソシオロジークラスター）

- 『現代社会はどこに向かうか―高原の見晴らしを切り開くこと』

見田宗介著、岩波新書

近代社会は、無限の成長を前提にしてきました。日本でもバブル崩壊後は「失われた20年」などと呼ばれ、アベノミクスをはじめ数々の経済刺激策が試みられています。しかし、いまま経済成長率は伸び悩み、少子高齢化の影も確実に迫りつつあることは皆さんもご存知の通りです。

こうしたなか社会学者の見田宗介は、むしろ「現代」を人類史の巨大な転回局面だと考えます。現代の若者の価値観変容からは、①「近代家族」システムの解体、②生活満足感の増大と「保守化」、③〈魔術的なもの〉の再生などが浮かび上がります。実はこれらは、経

済成長課題の完了を示しているというのです。「デザイン」「広告」「クレジット」の3点セットが推し進めてきた〈情報化・消費化資本主義〉はどこに向かっていくのか。また、地球全体を覆いつくすグローバル化はいったい何を意味しているのか。現代社会の行方を大きな視野で考えてみるには最適の一冊です。

—高橋良輔（コラボレーションクラスター）

- 『正義とは何か——現代政治哲学の6つの視点』

神島裕子著、中公新書

数年前、ハーバード大学のマイケル・サンデル教授による政治哲学の講義『ハーバード白熱教室』が話題になったことがありました。「暴走するトロッコに轢かれそうな5人の命を救うために、他の1人を犠牲にすることは許されるか？」この問いに皆さんは、どのように応えるのでしょうか？

実はこうした「正しさ」について考えるのが、政治学のなかでも正義論と呼ばれる分野です。現代の格差社会は、どこまで公正と言えるのか。グローバル化が進み、世界がますます狭くなるなかで、私たちはどこまで協力し合うべきなのか。この本では、リベラリズム、リバタリアニズム、コミュニタリアニズム、フェミニズム、コスモポリタニズム、そしてナショナリズムという6つの競合する考え方が紹介されます。〈地球社会共生学部〉に入学する皆さんには、いったいどの正義論が一番納得できるか、深く考えるきっかけにいただければと思います。

—高橋良輔（コラボレーションクラスター）

- 『世界を救う7人の日本人—国際貢献の教科書』

池上彰著、朝日新聞出版

本書は、水、母子保健、食料生産、基礎教育、産業振興等の分野で世界で活躍するプロフェッショナル8名の言葉を通して、途上国における援助の実際、日本の援助のアプローチを教えてくれる。一般に援助について尋ねると、相手国の人に資金を渡すだけではだめ、あるいは、施設や設備の供与のみならず、技術や知識を教えるべきなどの感想をもらうことがある。援助の現場ではこれらが当然のことになって久しい。むしろ、プロの現場では、途上国の人々が自分たちが整備した自分たちの設備として当事者意識をもてるよう、地元の文化や社会のなかで根付く保健医療サービス、運営ノウハウになるよう、相手側に寄り添う現場主義に徹している。援助することは一方的な「貢献」ではない。日本国内でもますます求められる社会的起業、イノベーションのヒントがある。援助の向こう側には

これからの世界経済を牽引しうる新たな市場がある。私たちが国際協力から学ぶものは多い。

—桑島京子（コラボレーションクラスター）

- 『小さな地球の大きな世界：プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発』

J.ロックストローム・M.クルム著、武内 和彦・石井 菜穂子（監修）、谷 淳也・森 秀行（翻訳）、丸善出版

本書は 2015 年に出版された Big World, Small Planet: Abundance Within Planetary Boundaries の翻訳です。昨今、さまざまなメディアで SDGs という言葉を目にする機会が多いと思います。SDGs とは 2015 年に国連で採択された持続可能な開発目標のことです。持続可能な開発の考え方を理解する上で、本書で提示されているプラネタリー・バウンダリー、つまり地球の限界という考え方はとても重要です。本書では、人間活動の急激な拡大が地球システムそのものを脅かしているということ、私たちが将来の世代にわたって成長と発展を続けていくためには、地球システムの機能を大切に新しい発展の枠組みが必要となっていることなどが述べられています。少し理解が難しいかもしれませんが、本書の科学的データや美しい写真を眺めながら、将来の世界のあり方について考えてみてください。

—升本潔（コラボレーションクラスター）

- 『トランスナショナル・ジャパニーズ・ポピュラー文化がアジアをひらく』

岩渕功一著、岩波現代文庫

文化の越境が日常化する中で、日本のポピュラー文化が、海外で受容され、人気を得ているということが言われるようになってきました。日本とアジアの関係においても、特に 1990 年代以降ポップ・カルチャーでの結び付きが顕著になってきたと言われます。本書は、このような状況をふまえた上で、1990 年代以降のアジアで消費される日本のポピュラー文化、日本で消費されるアジアのポピュラー文化と多元的に検証しています。文化の越境がもたらす多くの可能性がある一方、その可能性が異なる方向に進みつつあるという著者の指摘は、現在の日本の状況にもつながっているものと言えるでしょう。

—齋藤大輔（ソシオロジークラスター）

- 『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』

ロバート・アレン著（グローバル経済史研究会訳）、NTT 出版

本著は、欧米の先進国がグローバルに植民地を拡大しながら、分業を正当化しつつ、常に現地の国々を搾取して豊かな国になっている過程を、幾つかの事例を使って分かりやすく説明している。日本の事例もあがっているのだが、全体のボリュームから見れば僅かな紙面しか割いていないが、そのことで逆に日本はどうやって欧米先進国の搾取から逃れながら近代化ができたのだらうと思わせる。その意味でも、良書と言える。

—岩田伸人（ビジネスクラスター）

- 『日本 4.0——国家戦略の新しいリアル』

エドワード・ルトワック著（奥山真司訳）、文春新書

「戦争にチャンスを与えよ」という論文を発表して、議論を巻き起こした戦略家エドワード・ルトワックが、日本を含む現在のアジア情勢を分析した1冊。「北朝鮮の非核化は可能か」、「自衛隊進化論」、「日本は核武装すべきではない」、「冷戦後に戦争の文化が変わった」、「米中が戦う地経学紛争」など、生半可なネット右翼が啞然とするような“リアル”な分析が次々に描かれます。

アメリカ政府・軍のアドバイザーも務めたルトワックは、独自の「逆説的論理」によって戦略論に革命を起こした人物。彼にかかると、核兵器はあまりに強力すぎて「使えない兵器」であり、犠牲を過剰に回避する「ポスト・ヒロイックウォー」はかえってコストと犠牲を増大させることになります。「何もしなければ戦争への道をとめることはできない」という知的挑発をどのように受け止めるか、読み手の思考力が問われます。ただし、〈劇薬につき、取り扱い注意〉です。

—高橋良輔（コラボレーションクラスター）

- 『紛争と文化外交』

福島安紀子著、慶應義塾大学出版会

地球共生の課題の一つは「平和」である。そのための道程は、政治面、安全保障面、経済面、文化面まで多岐に亘る。紛争が終結し、和平合意が成立した後も平和が定着するためには政治的解決、経済復興が重要であることはいうまでもない。見過ごされがちなのが対立者の心の平和構築と和解である。そこに文化芸術、スポーツなどが重要な役割を果たしている。本書はアート、芸術、スポーツから価値観や生活様式までを含む広義の文化が平和のためにどのような役割を果たすかを分析し、事例を検証する。

例えばサッカーは子供達の大好きなスポーツであり、対立する人々のコミュニケーションの手段となり、またサッカーによって人々の自信を回復させ、希望を与えることにも

つながる。元サッカー日本代表主将の宮本恒靖氏（現ガンバ大阪監督）はバルカン戦争の激戦地のボスニアヘルツェゴビナで子どもたちのためのサッカーアカデミーを設立している。そのほか音楽、演劇、文学、文化財などの事例から地球共生を考えて見たい。

—福島安紀子（コラボレーションクラスター）

- 『＜文化＞を捉え直す—カルチュラル・セキュリティの発想』

渡辺靖著、岩波新書

文化人類学者で現代アメリカ研究の第一人者である渡辺靖が、「ソフト・パワー」や「人間の安全保障」といった「非伝統的な安全保障」と「文化」の関係に焦点を当てて考察している。世界各地で生じているグローバリゼーション、パブリックディプロマシーなどに関わる多彩な具体的事例をとりあげながら、「文化」の捉え方と政策論という、別次元で論じられがちな課題を見事に華僑している。「文化」に対する深い理解と、フィールドワークで培った現実的で強靱でありながら柔軟な思考が根底に流れており、コンパクトかつ平易に書かれているけれども今日の文化理解に不可欠な観点が提示されている。

—岡本真佐子（ソシオロジークラスター）

地球社会共生学部・英語事前学習についてのご案内

地球社会共生学部では、IELTS という英語テストを複数回受験し（初回は1年次の6月を予定）、そのスコアをもとに留学が可能なレベルの英語力に達しているかを確認した上で、2年次後期に留学します。

以下に、英語力を向上させるために参考となる書籍等をご紹介します。日常的に使う英語はもちろんのこと、IELTS の対策としても大いに役立つことでしょう。入学前の今から英語力に磨きをかけた上で、まずは1年次前期に受験する IELTS で良いスコアが取れるように心がけてください。

【IELTS とは？】

☆IELTS (International English Language Testing System) は聞く、読む、書く、話すの4つの英語力を総合的に測る、世界各国で実施されているテストです。入学前にどのようなテスト形式なのかを知っておけば、必ずスコアアップにつながります。

下記に2つのオンライン学習サイトをご紹介します。どちらも無料で利用ができます。

1. 「Road to IELTS」 <http://www.roadtoielts.com/japan/>

方法：アクセス後、Choose your module の「Academic」を選択し、必要事項を記入後、登録「Register」をクリックして始めてみましょう。

特徴：30 時間分の講義を自分のペースで受講することができます。過去問題を利用して、実践的に練習ができます。

2. 「IELTS Official」 <https://www.youtube.com/user/IELTSOfficial>

方法：IELTS のオフィシャルホームページ <https://www.ielts.org/> にアクセス後、最下段に記載されている YouTube アイコンをクリックします。

特徴：IELTS のバンド(評価)に応じ、模擬解答例を紹介しています。特にスピーキングサンプルは参考になります。

➤ IELTS 受験の際にはパスポートが必要になります。入学前に取得できるように各自で準備をしておいてください。

(次頁に続きます。)

【手元に置いておきたい英語文法書】

☆高校で使用してきた文法書でも構いません。もし、購入するのであれば、以下のいずれかがお勧めです。

- ❖ 徹底例解 ロイヤル英文法（旺文社）
- ❖ エイザーの基本英文法・中級編＜上＞＜下＞（プレンティスホール出版編集部）
- ❖ エイザーのわかって使える英文法＜上＞＜下＞（桐原書店）
- ❖ マーフィーのケンブリッジ英文法（ケンブリッジ出版）

【本格的な IELTS 対策向け書籍】

☆入学後は本格的な IELTS 対策を行います。以下の書籍は実際のテスト問題サンプルや問題集です。

- ❖ 「Cambridge IELTS」 (Cambridge University Press)
(1 から 13 までありますが、難易度別ではありません。最新版は 13 になります。)
- ❖ 「新セルフスディ IELTS 完全攻略」 (ジャパントイムズ・日本語の解説付き)
- ❖ 「IELTS 対策模試 (日本語対訳版)」 Collins Practice Tests for IELTS (語研)
- ❖ 「IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認 本番形式問題 3 回分」 (旺文社)
- ❖ 「IELTS ブリティッシュ・カウンシル公認問題集」 (旺文社)
- ❖ 「完全攻略! IELTS (「完全攻略!」シリーズ)」 (アルク)
- ❖ 「スコアに直結! IELTS」 (ナツメ社)

【挑戦してみたい英単語テキスト】

☆目標にすべきは 1 冊を終えることではなく、無理のない範囲で継続することです。高校時代に使用した英単語集があれば、まず学んだことを復習してみてください。さらに以下のテキストを利用すると、入学後の授業や IELTS 対策としても役に立ちます。

- ❖ Cambridge Vocabulary for IELTS with Answers and Audio CD
(Cambridge Exams Publishing)
- ❖ 実践 IELTS 英単語 3500 (旺文社・日本語)
- ❖ セルフスタディ IELTS 必須ボキャブラリー (ジャパントイムズ出版)
- ❖ IELTS 必須英単語 4400 (ベレ出版)